

いけんひろば
～あなたが思う「居場所」は？～

フィードバック資料

2023年度『こども若者★いけんぷらす』事業

開催概要

<p>テーマ</p>	<p>あなたが思う「居場所」は？ （「こども家庭審議会こどもの居場所部会」のなかで「こども・若者からのヒアリング」 として開催）</p>
<p>担当省庁</p>	<p>こども家庭庁</p>
<p>開催日時</p>	<p>令和5年7月31日（月） 15:20～17:30ごろ</p>
<p>開催場所</p>	<p>東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング21階、22階（こども家庭庁内会議室）</p>
<p>参加対象者</p>	<p>ぷらすメンバー全体（小学生～社会人）</p>
<p>参加人数／グループ数</p>	<p>23名／5グループ</p>
<p>主なヒアリング内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分にとって居場所だと感じる場などがあります（います）か？ また、それはどんな場ですか？ • その居場所では、どんな気持ち（感情）になりますか？ • その居場所に対して、もっとこうであってほしいなどありますか？ <p style="text-align: right;">など</p>

目次

- こどもの居場所づくりに関する指針（素案）への反映について
- 【やさしい版】こどもの居場所づくりに関する指針（素案）について
- 第2章1「こどもの居場所とは」への反映
- 第2章2「こどもの居場所の特徴」への反映
- 第3章4「『つなぐ』～こどもが居場所につながる～」への反映
- 第3章5「『みかく』～こどもにとって、よりよい居場所となる～」への反映
- 今回反映されなかった意見について
- 関連リンク集



資料についての補足

各意見について、カッコ書きで該当の意見がでていたグループの構成年代を掲載しています。

本いけんひろばでは参加者を以下の5つのグループに分け、意見交換を行いました。

- Aグループ：小学1年生～小学6年生／6人
- Bグループ：中学3年生～高校2年生／4人
- Cグループ：小学6年生～高校1年生／4人
- Dグループ：高校2年生～大学2年生／5人
- Eグループ：大学4年生～社会人／4人

今回のいけんひろばでいただいた意見は、
こどもの居場所づくりに関する指針（素案）
に反映されました！

※こどもの居場所づくりに関する指針（素案）へのリンクは[こちらをみてください](#)。

『こどもの居場所づくりに関する指針（素案）』とは

- 『こどもの居場所づくりに関する指針（素案）』とは、年末に向けて作られる『こどもの居場所づくりに関する指針』のもとになるものです。
- 『こどもの居場所づくりに関する指針』とは、こども・若者のみなさんにとって、**よりよい居場所が社会の中に広がっていくことを後押しするため**の方針です。
- 5ページ目から8ページ目に『こどもの居場所づくりに関する指針（素案）』についてやさしく説明しているので、一度見てみてください。
- みなさんからいただいた意見は「報告資料」としてもとりにまとめています。ぜひこども家庭庁のホームページをご確認ください！（詳細はp.14「関連リンク集」を御覧ください。）



【やさしい版】こどもの居場所づくりに関する指針（素案）について ①

いばしょ 居場所とは？



こどもが過ごす場所・時間、人との関係性すべてが、こども・若者にとって居場所になりえる。また、その場や対象を居場所と感じるかどうかは、本人が決めることであり、そこに行くかどうか、どう過ごすかなど、こども本人の主体性を大切にする。

いばしょ おも とくちょう 居場所の主な特徴

こじんてき へんか ・個人的であり、変化しやすい

自分にとっての居場所が、ほかの人にとっての居場所ではないこともある。また、昨日居場所だと思っていた場が、今日は居場所だと感じられないこともある。

りっち ちいませい えいきょう ・立地や地域性などの影響をうける

お寺や神社が多い地域や、商店街がある地域など、どの地域にあるのかなどによって、影響をうける。



かんけいせい えいきょう ・人との関係性に影響をうける

だれかと一緒にいたかったり、人と距離をとって一人でいたいなど、人との関係に影響をうける。

いばしょ 居場所づくりとは？



居場所とは、こども本人が決めるものである一方で、居場所づくりとは、第三者（他人）が中心となり居場所をつくることである。そのため、居場所と感じることと、居場所をつくることには隔たりがある。

だからこそ・・・

こどもの声を聴きながら、



こどもの視点に立った居場所づくりが重要

そのうえで・・・

それぞれのこどもの特性や、求めているものに
応じて、身近に居場所を持てることが大切

こどもの居場所づくりが 目指す理念



すべてのこどもが安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、将来にわたって幸せな状態で成長し、社会で活躍していけるよう、「こどもまんなか」の居場所づくりを実現する。

? なぜ居場所づくりが必要なのか?

居場所がないことは孤独・孤立の問題と深く関係し、こどもが生きていく上で居場所があることは不可欠

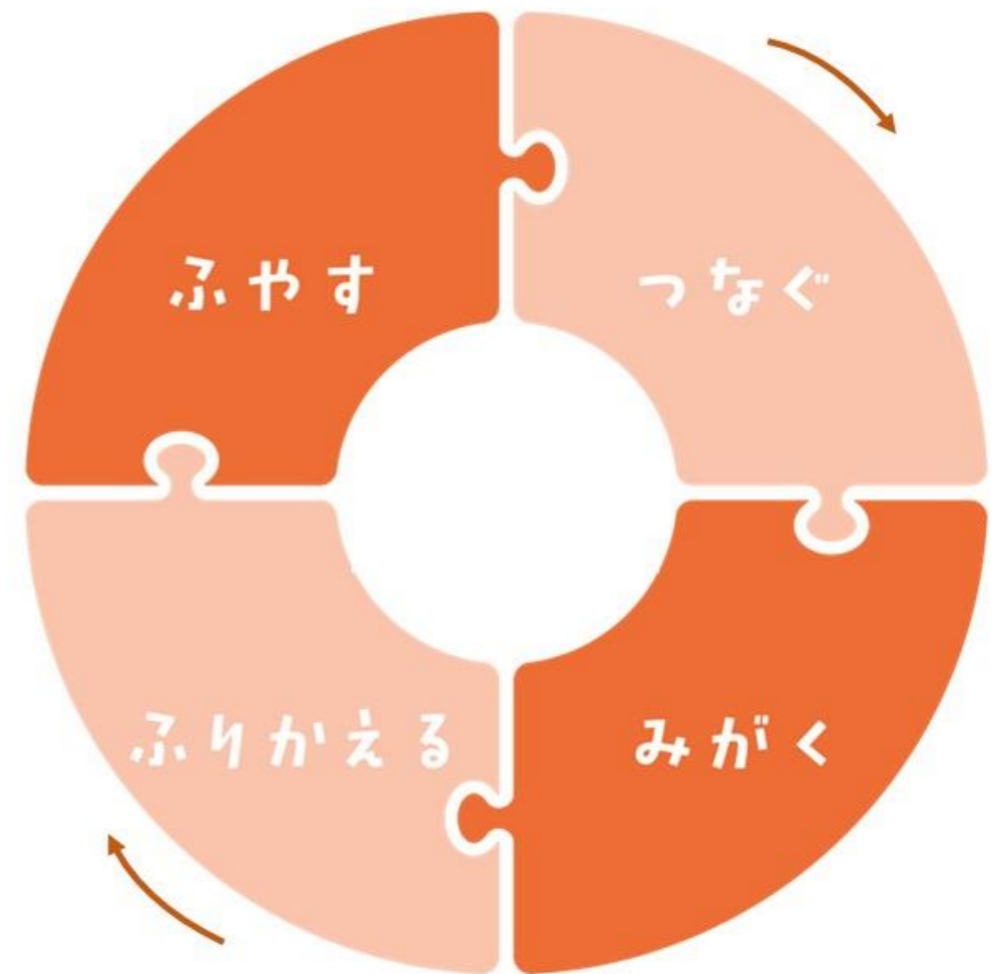
しかしながら、

- ①地域のつながりが薄くなっていて、地域の中でこどもが育ちにくい。
- ②こどもを取り巻く環境の厳しさが増している。
- ③さまざまな価値観が広がってきている。

といった、背景があります。

こどもの居場所づくりを どうすすめるか?

こどもの居場所づくりをすすめるうえでの
4つの基本的な視点

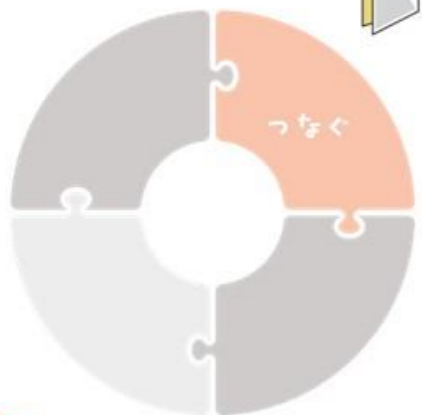


ぐるぐるまわりながら、こどもの居場所づくりを
すすめていくことが大切

いばしょ
こどもの居場所づくりを
どうすすめるのか

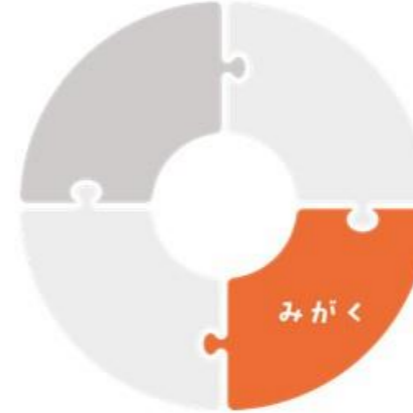


- こども・若者が居場所を持っているか、どういった居場所をもとめているのかなどを把握する。
- 児童館や公民館など、すでにある施設を活用して居場所づくりをすすめる。
- 新たに居場所づくりをしたい人を応援する。
- 居場所づくりが続いていくように、支える。
- 災害のときでも、居場所を持てるように、支える

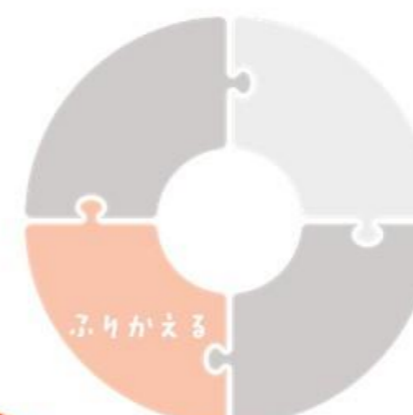


- 居場所に関する情報をわかりやすくまとめて、探しやすいとする。
- こどもの興味にそった居場所づくりによって、利用しやすいようにする。
- 自分ではなかなか利用しにくいこどもも、居場所につながるように工夫する。

いばしょ
こどもの居場所づくりを
どうすすめるのか

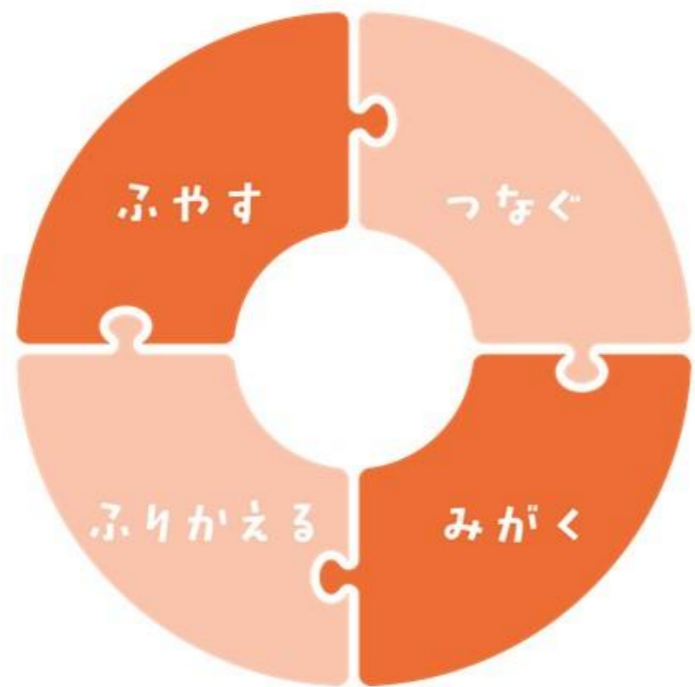


- 心身の安全が確保され、安心してすごせる居場所づくりをすすめる。
- こどもが居場所づくりに参画し、こどもとともに居場所づくりをすすめる。
- どのように過ごすか、だれと過ごすかを意識した居場所づくりをすすめる。
- 居場所同士や、他の施設などと一緒に居場所づくりをすすめる。
- 環境の変化にあわせて、居場所づくりをすすめる。



- 居場所づくりがすすんでいるかを振り返ることは必要だが、どのように振り返るのかについては、これから検討していく。

すべての点に共通すること



1

こどもの声を聴き、こどもの視点に立ち、こどもとともに居場所をつくること

2

こどもの権利*を守ること



3

国や役所、市民と一緒に協力して、こどもの居場所づくりをすすめること

*こども・若者(わかもの)の権利(けんり)とは、大事(だいじ)に育(そだ)てられることや、意見(いけん)を言(い)えることなど、こども・若者が幸(しあわ)せに生(い)きるためのけんりのこと。

こどもの居場所づくりに関係する
ひとの役割と体制



団体や
地域の役割

団体は、この方針をふまえて、地域の事情に応じた居場所づくりをすすめる。地域住民は、参加したり、こどもの見守りなどを積極的に行うことを期待する。



学校や
企業の役割

学校は、こどもの居場所としての認識を持ちながら、他の機関と協力して居場所づくりをすすめる。企業は、運営のサポートなど積極的に行うことを期待する。



地方自治体
や国の役割

市町村は、こどもの居場所づくりを計画的にすすめる。都道府県はその取り組みを支える。こども家庭庁のリーダーシップの下、一体となって居場所づくりをすすめる。

- みなさんからいただいた「居場所だと感じるもの・感じないもの」に関する意見は、素案の第2章1「こどもの居場所とは」に反映されました。
- 第2章1「こどもの居場所とは」の部分には、こどもの居場所とは、どういったもので、何を大切にすることが必要なのかなどについて書かれています。

報告資料 (みなさんの意見)



- こども・若者のみなさんが居場所だと感じるものとして、家や学校、SNSだけでなく、図書館や公園、さらには、飲食店やカフェなどさまざまな場所が居場所になると話がされていた。



意見反映時のポイント

- こども・若者のみなさんが居場所だと感じるものは様々であること

素案 (意見が反映されたもの)

- こども・若者が過ごす場所・時間、人との関係性全てが、こども・若者にとっての居場所になりえる。すなわち居場所とは、物理的な「場」だけでなく、遊びや体験活動、オンライン空間といった多様な形態をとりうるものである。(P.6)
- その場や対象を居場所と感じるかどうかは、**こども本人が決めること**であり、そこに行くかどうか、どう過ごすか、その場をどのようにしていきたいかなど、こども・若者が自ら決め、行動する姿勢など、**こどもの主体性を大切にすることが求められる。**(P.6)

※ () のページ数は、こども居場所づくりに関する指針(素案)のページ数を表しています。



第2章2「こどもの居場所の特徴」への反映

- みなさんからいただいた「居場所だと感じるもの・感じないもの」、「居場所」がない、なくなったと思うときに関する意見は、素案の第2章2「こどもの居場所の特徴」に反映されました。
- 第2章2「こどもの居場所の特徴」の部分には、居場所とは変化しやすいものであったり、地域性や目的によって変化するものであるなどの特徴が書かれており、「居場所」をよりわかりやすくまとめています。

報告資料 (みなさんの意見)

<居場所だと感じるには、そこにいる人との関係性が重要であること>

- 自分が他人にどう思われているかと考えているときはまだ「居場所」になっていないと思う。(高校生・大学生)
- 人の目を気にし始めちゃうと「居場所」じゃない。(大学生・社会人)
- 学校だと先生とか友達に気を使わないといけない。(小学生～高校生)
- 一人になれる時間があるのが家(小学生～高校生)
- 部活の友達やクラスメイト、先輩・後輩・先生と話すのが好き。(中高生)

<居場所だと感じていたものが変化していくことや、人によって居場所の感じ方が異なること>

- 新しい学校に通うことになったとき、これまで築いてきた関係が途切れて「居場所」がなくなったと感じた。(高校生・大学生)
- 一般的に家や学校は「居場所」とされているが、虐待やいじめを受けている人たちにとっては「居場所」ではなくなる。(高校生・大学生)
- 自分の知らない情報で話が盛り上がっているときは自分の存在意義を見出せず「居場所」ではないと感じる。(高校生・大学生)

意見反映時のポイント

- こども・若者のみなさんにとって居場所だと感じるものは人との関係性が重要であること
- 居場所だと感じていたとしても常に居場所だと感じるものでなく、変化するものであること

素案 (意見が反映されたもの)



- その場において、他者に受け入れてもらえることや交流ができることなど、人との関係性があることが、当人の居場所と感じることに影響している。一方で、だれとも交流せずに、自分ひとりでいられることや他者が関わってこないなど、人との関係性から距離を置いた場だからこそ、居場所と感じることもある。(P.7)
- 昨日まで居場所だと感じていた対象や場が、心理的な変化や人間関係の変化などにより、今日は居場所だと感じられないこともある。さらに、こどもの成長や発達に伴い、同じこどもであっても求める居場所が異なってくる。このように、こどもの居場所は変化しやすいものである。(P.6)
- こどもにとって、学校は単に学ぶだけの場ではなく、安全に安心して過ごしなが、他所と関わりながら育つ、こどもにとって大切な居場所の一つであり、実際に、一日の大半を過ごす場所として、学校は多くのこどもにとっての居場所となっている。(P.7)



- みなさんからいただいた「居場所と感ずるようになった過程・利用するようになったきっかけ」、「居場所を利用しやすくするために求めるもの」に関する意見は、素案の第3章4「つなぐ」～子どもが居場所につながる～に反映されました。
- 第3章4「つなぐ」～子どもが居場所につながる～の部分には、居場所づくりによって整備される場が、子ども・若者にとって行きやすく、利用しやすくなるために大切にしたいことが書かれています。

報告資料 (みなさんの意見)

- 自分で「こういうところに行きたい」という意識をもって、インターネットを活用して「居場所」を探せたらよい。(高校生・大学生)
- 自分が住んでいる地域等信頼性が高い組織がHPなどで紹介してくれると行きやすい。(高校生・大学生)
- 実際の参加レポートを公表するなど広報が重要。(中高生)
- たまたま「あなたへのおすすめ」などでリコメンドされた場所に行く場合もある。(高校生・大学生)
- SNSでいまでも仲良しで旅行したりおうちに泊まりにいたりする子がいる。(大学生・社会人)
- 放課後遊びのボランティアの人に中高生の「居場所の」存在を教えてもらった。(高校生・大学生)
- 自分から話しかけるのは緊張するので、話しかけてもらえるイベントなど、話すきっかけになるイベントがあったら嬉しい。(小学生)
- 学校のルールで「校区外に一人で行ってはいけない」というものがあるため、校区外だと子どもだけで行きづらい。(小学生)

意見反映時のポイント

- 子ども・若者のみなさんにとってどういうところに居場所があるかをまずは知ってもらい「行きたい」と思ってもらうことが重要であること
- 利用のきっかけは本人の意思だけでなく、周りのひとや興味のあるものをきっかけとしていること
- 移動のコストがかかることで居場所を利用する障壁になること

素案 (意見が反映されたもの)

- 地域のどこに、どんな種類の場があるかを、地域全体で取り組むことが重要である。多様なこどもの居場所に関する情報をまとめ、マップやポータルサイトなどに可視化し、検索できるようにすることも有効である。特に、その場の様子や過ごし方など、子ども・若者にとってイメージできるような情報の掲載は、「行きたい」と思う動機づけにつながる。(P.14)
- これらの情報は、本人が選びやすいよう情報が整理され、自分のニーズに適した場を探しやすくされるように、子ども・若者と居場所をマッチングしやすくするなどの工夫も必要である。(P.14)
- 子ども・若者の興味や関心、文化に即した居場所は、利用しやすさを高めることにつながる。ゲームやスポーツ、音楽、動画作成など、子ども・若者が興味のあるものがきっかけで利用しはじめる。(P.14)
- 利用のきっかけは本人の意思だけではなく、保護者や友人、学校の教職員や地域の方、相談支援専門員など信頼できる者からのすすめが利用しやすさにつながることもあり、こうしたつなぐ人や機関の役割が重要。(P.15)
- 移動そのものや移動にかかるコストなどが、子ども・若者が場を利用する際の障壁となることがある。近隣の公園に出向いて居場所を開催するなどアウトリーチによる居場所づくりなど移動にかかるコストを低減させる工夫も重要。(P.15)

- みなさんからいただいた「居場所」であるために大切なこと、「居場所」をより心地の良いものにするために求めることに関する意見は、素案の第3章5「みがく」～子どもにとって、よりよい居場所となる～に反映されました。
- 第3章5「みがく」～子どもにとって、よりよい居場所となる～の部分には、その場がその子ども・若者に居場所になっていくためには、安心・安全性、その場での過ごし方、だれがいるのかなど、よりよい居場所づくりのために必要なこと・大切にしたいことが書かれています。

報告資料 (みなさんの意見)

- 逃げ道として居心地の良いと感じる場所は何か所があった方がよいと思う。(高校生・大学生)
- 安心したり、わくわくしたり、もっとこうしたいという気持ちを感じられたりする場所。(大学生・社会人)
- いじめがない場所がいい。(小学生)
- 一人になって自分の気持ちを考えたりして落ち着いたり、自分でコントロールできるようになる場所があればいいと思う。(中高生)
- 優しい人、良く意見をきいてくれる人、ダメなことはだめとってくれる人。(小学生)
- 専門的な知識を教えてくれたり、アドバイスをしてくれたりする人がいてくれると嬉しい。(小学生)
- 高校生だと自分の話をきいてほしいという人が多いけど、大学生だと私の話を聞いてくれたりするのがいい。(中高生)
- 子どもだけでは解決できないトラブルがあるときに助けてほしい。(小学生)

意見反映時のポイント

- 子ども・若者のみなさんにとって、居場所が安心安全な場であることが重要であること
- 大人との関係性が大事であること
- 子ども・若者をいざというときは助ける存在であるべきこと

素案 (意見が反映されたもの)

- 居場所は、子ども・若者にとって安心して過ごすことができ、心身の安全が確保された場である必要がある。子ども・若者が居場所にいることで、大人から搾取されたり、犯罪に巻き込まれるといったことがあってはならない。どのような場所を安心・安全と感じるかは、子ども・若者によって異なりうるが、少なくとも、子ども・若者が不安や恐怖に感じることがないようにすることが必要である。(P.16)
- 「だれと過ごせるか」といったその場にいる人との関係性に注目することも重要である。友人などの横の関係に対して、居場所づくりを担う大人が、自分の話をよく聞いてくれ、受け入れてくれる、一緒に何かに取り組んでくれる、あこがれの対象(ロールモデル)になる等といった斜めの関係であることが、こどもの居場所において重要。(P.17)
- オンラインゲームやSNSなどは、不適切な大人の関わりなどのリスクが強調されがちであるが、子ども・若者をこうしたリスクから守りつつ、その有用性について理解を深めていく必要。(P.18)



今回のいけんひろばでいただいた意見のなかには、残念ながら素案に反映されなかった意見もありました。しかしながら、素案以外のものへの反映も考えていることから、ここでは、以下についてまとめました。

- なぜ素案に反映されなかったのか
- どのような機会に反映することを考えているか

反映されなかった主な意見

<広報・宣伝について>

- テレビやコマーシャルみたいに、普段生活する中で目につく、聞こえる場所にあれば、抵抗感が薄れていくのかなと思う。（大学生・社会人）
- こども家庭庁が電車広告などで「こんな「居場所」があるよ」と周知してくれるとよいと思う。（高校生・大学生）
- ロゴマークなど、目に見える視覚情報として、だれでも入っていいことがわかりやすく伝えられるといいなと思う。（大学生・社会人）



反映されなかった理由や素案以外での反映について

<広報・宣伝について>

広報・宣伝については、多くのひとから、様々なアイデアをいただきました。こどもの居場所づくりに関する指針は、居場所づくりに関する大きな方向性を示すもののため、素案の中では具体的な広報や宣伝方法まで載せることはしませんでした。また、電車広告やコマーシャルで広告することは多くのお金がかかる方法のため、すぐに実行することは難しいと考えて、この点も具体的に書かれていませんが、第3章4の「つなぐ」のパートで、こども・若者やその保護者に広く情報提供がされることが重要であることを書きました。いけんひろばの中では、普段みなさんが接するメディアに関して幅広く意見をもらうことができ、とても参考になりました。今後、指針策定した後の広報や、居場所に関する情報を発信する際に、活かしていきます。

「こども若者★いけんぷらす」についてのホームページ

[「こども若者★いけんぷらす」について | こども家庭庁 \(cfa.go.jp\)](https://cfa.go.jp/ikensa)



「いけんひろば～あなたが思う「居場所」は？～」のホームページ

[いけんひろば ～あなたが思う「居場所」は？～ について | こども家庭庁 \(cfa.go.jp\)](https://cfa.go.jp/ikenhiroba)

「こどもの居場所づくり」についてのホームページ

[こどもの居場所づくり | こども家庭庁 \(cfa.go.jp\)](https://cfa.go.jp/ikodomo)

